

「社会医療診療行為別調査の検証等に関する
ワーキンググループ」における検討状況

- 社会医療のデータとメディアスのデータを医科、歯科、調剤それぞれについて経年比較を行い、検証した結果、歯科、調剤については、大きな乖離は認めなかった。
- しかし、医科については、入院外で大きな乖離があり、その原因は診療所の入院外にあると考えられた。
- この診療所の入院外の診療行為について見ると、処置が例年と比較して大きく増加しており、その中でも人工腎臓（透析）が大きな影響を与えていると考えられた。
- 医科診療所入院外の処置について、さらに診療科別に見ると、内科の処置の点数の伸びが全体の処置に影響を与えたと考えられる。
- レセプト抽出状況を見たところ、内科診療所において有床・無床いずれにおいても、例年と比較して人工腎臓を算定しているレセプトが多く抽出されていた。
- なお、診療所の入院外では、処置以外にも、リハビリテーションや、精神科専門療法等、前年と比較して大きな伸びを示していたが、項目自体の総点数が小さく、いずれも全体には特段の影響を与えていないと考えられた。
- 今後は、処置等を中心にさらに検証を進めつつ、試行的に特別集計を行っていく。